

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度 【30%】 提出物評価 【50%】、 演習評価 【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜5	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに關しては、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度 【30%】 提出物評価 【50%】、 演習評価 【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	コミュニケーション・スキル						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	さまざまなコミュニケーションツールのスキルアップをはかる。						
授業の概要	『聴く』『話す』能力を高める。 コミュニケーションへの理解を深め、コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解などの関心を高める。 演習の際、評価シートを用いてお互いの演習の出来映えをフィードバックし、チェックする。 セルフコーチング、ファシリテーションの理解を深め問題解決のコミュニケーションスキルを高める。 最後に客観的、論理的に議論することを基本とするディベートで、自分の考えや説得力を磨いていく。						
到達目標	ものごとを客観的に表現できるようになる。 自分の主張をわかりやすく伝えられるようになる。						
授業計画	<ul style="list-style-type: none"> ①アイスブレイキング 知らない人を知る、親しくなる ②コミュニケーションの基本 コミュニケーションマインド・自己理解・相手理解について ③プレゼンテーションのポイント 何をどう表現するのか、プレゼンテーション原稿の作成 ④プレゼンテーション演習 評価シートによるフィードバック ⑤セルフコーチング 問題解決行動までの自分との対話 ⑥ファシリテーションⅠ 効果的なミーティング ⑦ファシリテーションⅡ 課題解決のための議事進行 ⑧プレゼンテーションⅠ わかりやすく主張する ⑨プレゼンテーションⅡ 論拠をもって説得する ⑩ディベートⅠ 概要説明、立論、尋問、反駁について ⑪ディベートⅡ 三角ロジックについて、論理的に考え話す ⑫ディベートⅢ ディベート実践、振り返り ⑬ディベートⅣ データの使い方、引用の仕方 ⑭ディベートⅤ サッカーディベートⅠ ⑮ディベートⅥ サッカーディベートⅡ、まとめ 						
授業外における学習（準備学習の内容）	提出を指示したことに 대해서는、授業の復習をしたうえで提出物を作成すること。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度 【30%】 提出物評価 【50%】、 演習評価 【20%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」と感じたり、「ん～うまく伝えられない。」ともどかしく思ったりしたことはありませんか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかということを考え、より良い話し方を身につけることを目指します。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことに意識して話せばいいかを考えます。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をします。そして、毎回の授業で、自分の話し手としての姿勢や、聴き手としての態度がどのように変化したのかを振り返ります。15回の授業で、話し上手な女性を目指しましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の話し方の特徴を知る ・相手に合った語彙や表現を使える ・状況に合わせて話すことができる ・積極的に会話できる 						
授業計画	第1回 私たちはなんのために話すのか 第2回 自己紹介（1）：自己紹介をする目的は？ 第3回 自己紹介（2）：自己紹介をしてみましょう（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方の特徴を分析する 第5回 ほめ方を考える 第6回 ちょっといい話（個別発表2） 第7回 雑談力をみがく 第8回 上手な意見の伝え方 第9回 相手のタイプを考えて話す 第10回 聞き手の感情に配慮した伝え方 第11回 敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に次回の授業までの課題を出します。この課題は次の授業で活用する内容ですので、必ずしていただくこと。（1時間程度の課題） 授業後学習：毎回の授業の最後に、その日の授業についての振り返りをしてもらいます。授業内容の記録と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出してください。（記入時間は15分ほど。）						
授業方法	能動的な学習をしてもらうために、グループワークを中心とした授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表20%、「振り返りシート」の提出20%、宿題の提出20%、最終日の自己評価書40%						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動40』石黒圭、スリーエーネットワーク、ISBN978-4-88319-580-0 ・『最新最強の就職面接』福沢恵子、成美堂出版、ISBN978-4-415-22021-5 ・『日本語とコミュニケーション』滝浦真人・大橋理枝、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-31543-5 ・『マインドマップ内定術』渋谷文武、日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-31659-4 						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」と感じたり、「ん～うまく伝えられない。」ともどかしく思ったりしたことはありませんか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかということを考え、より良い話し方を身につけることを目指します。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことに意識して話せばいいかを考えます。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をします。そして、毎回の授業で、自分の話し手としての姿勢や、聴き手としての態度がどのように変化したのかを振り返ります。15回の授業で、話し上手な女性を目指しましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の話し方の特徴を知る ・相手に合った語彙や表現を使える ・状況に合わせて話すことができる ・積極的に会話できる 						
授業計画	第1回 私たちはなんのために話すのか 第2回 自己紹介（1）：自己紹介をする目的は？ 第3回 自己紹介（2）：自己紹介をしてみましょう（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方の特徴を分析する 第5回 ほめ方を考える 第6回 ちょっといい話（個別発表2） 第7回 雑談力をみがく 第8回 上手な意見の伝え方 第9回 相手のタイプを考えて話す 第10回 聞き手の感情に配慮した伝え方 第11回 敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に次回の授業までの課題を出します。この課題は次の授業で活用する内容ですので、必ずしてください。（1時間程度の課題） 授業後学習：毎回の授業の最後に、その日の授業についての振り返りをしてもらいます。授業内容の記録と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出してください。（記入時間は15分ほど。）						
授業方法	能動的な学習をしてもらうために、グループワークを中心とした授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表20%、「振り返りシート」の提出20%、宿題の提出20%、最終日の自己評価書40%						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動40』石黒圭、スリーエーネットワーク、ISBN978-4-88319-580-0 ・『最新最強の就職面接』福沢恵子、成美堂出版、ISBN978-4-415-22021-5 ・『日本語とコミュニケーション』滝浦真人・大橋理枝、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-31543-5 ・『マインドマップ内定術』渋谷文武、日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-31659-4 						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」と感じたり、「ん～うまく伝えられない。」ともどかしく思ったりしたことはありませんか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかということを考え、より良い話し方を身につけることを目指します。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことに意識して話せばいいかを考えます。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をします。そして、毎回の授業で、自分の話し手としての姿勢や、聴き手としての態度がどのように変化したのかを振り返ります。15回の授業で、話し上手な女性を目指しましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の話し方の特徴を知る ・相手に合った語彙や表現を使える ・状況に合わせて話すことができる ・積極的に会話できる 						
授業計画	第1回 私たちはなんのために話すのか 第2回 自己紹介（1）：自己紹介をする目的は？ 第3回 自己紹介（2）：自己紹介をしてみましょう（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方の特徴を分析する 第5回 ほめ方を考える 第6回 ちょっといい話（個別発表2） 第7回 雑談力をみがく 第8回 上手な意見の伝え方 第9回 相手のタイプを考えて話す 第10回 聞き手の感情に配慮した伝え方 第11回 敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に次回の授業までの課題を出します。この課題は次の授業で活用する内容ですので、必ずしてください。（1時間程度の課題） 授業後学習：毎回の授業の最後に、その日の授業についての振り返りをしてもらいます。授業内容の記録と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出してください。（記入時間は15分ほど。）						
授業方法	能動的な学習をしてもらうために、グループワークを中心とした授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表20%、「振り返りシート」の提出20%、宿題の提出20%、最終日の自己評価書40%						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動40』石黒圭、スリーエーネットワーク、ISBN978-4-88319-580-0 ・『最新最強の就職面接』福沢恵子、成美堂出版、ISBN978-4-415-22021-5 ・『日本語とコミュニケーション』滝浦真人・大橋理枝、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-31543-5 ・『マインドマップ内定術』渋谷文武、日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-31659-4 						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる話しことば						
担当教員	尾形 文						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	意識して話す：話し手としての自分の話し方や使用語彙を自覚するとともに、聴き手としてどのような態度をとっているかについても振り返り、よりよいコミュニケーションを行うためには今後どのように改善をすればいいかを考える。						
授業の概要	誰かと話している時に、「あれ？誤解されたかな？」と感じたり、「ん～うまく伝えられない。」ともどかしく思ったりしたことはありませんか。この授業では、なぜそのような事態が発生するのかということを考え、より良い話し方を身につけることを目指します。まず、自分の考えや思いを聴き手に伝えるためには、どんなことに意識して話せばいいかを考えます。次に、さまざまな場面を想定して、実際に話す練習をします。そして、毎回の授業で、自分の話し手としての姿勢や、聴き手としての態度がどのように変化したのかを振り返ります。15回の授業で、話し上手な女性を目指しましょう。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の話し方の特徴を知る ・相手に合った語彙や表現を使える ・状況に合わせて話すことができる ・積極的に会話できる 						
授業計画	第1回 私たちはなんのために話すのか 第2回 自己紹介（1）：自己紹介をする目的は？ 第3回 自己紹介（2）：自己紹介をしてみましょう（個別発表1） 第4回 自分の話し方の特徴を知る：グループでのおしゃべりを録音して、自分の話し方の特徴を分析する 第5回 ほめ方を考える 第6回 ちょっといい話（個別発表2） 第7回 雑談力をみがく 第8回 上手な意見の伝え方 第9回 相手のタイプを考えて話す 第10回 聞き手の感情に配慮した伝え方 第11回 敬語の復習 第12回 「わたし」について考える：マインドマップを使って 第13回 私の専門と将来のビジョン（個別発表3） 第14回 面接のための話しことば：頻出質問と志望動機について 第15回 授業全体の振り返り：①質問など ②自己評価書の作成（「振り返りシート」をもとに自分の話しことばがどのように変化したかを書く）						
授業外における学習（準備学習の内容）	授業前学習：授業の最後に次回の授業までの課題を出します。この課題は次の授業で活用する内容ですので、必ずしていただくこと。（1時間程度の課題） 授業後学習：毎回の授業の最後に、その日の授業についての振り返りをしてもらいます。授業内容の記録と自分についての振り返りを「振り返りシート」に記入して提出してください。（記入時間は15分ほど。）						
授業方法	能動的な学習をしてもらうために、グループワークを中心とした授業を行います。グループワークでは、人の意見を聞くことにより思考を深め、自分の考えを発言する練習をします。また、大勢の前で発表をすることに慣れるために、個別発表も行います。						
評価基準と評価方法	授業中の発表20%、「振り返りシート」の提出20%、宿題の提出20%、最終日の自己評価書40%						
教科書	なし						
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・『会話の授業を楽しくする コミュニケーションのためのクラス活動40』石黒圭、スリーイーネットワーク、ISBN978-4-88319-580-0 ・『最新最強の就職面接』福沢恵子、成美堂出版、ISBN978-4-415-22021-5 ・『日本語とコミュニケーション』滝浦真人・大橋理枝、放送大学教育振興会、ISBN978-4-595-31543-5 ・『マインドマップ内定術』渋谷文武、日本経済新聞出版社、ISBN978-4-532-31659-4 						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	岡田 裕子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。</p> <p>「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。</p> <p>より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 状況に応じた文章・文体</p> <p>第3回 設定に応じた紹介文</p> <p>第4回 メール（1）情報を知らせる</p> <p>第5回 メール（2）依頼する</p> <p>第6回 敬語の練習</p> <p>第7回 敬語と手紙</p> <p>第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1）</p> <p>第9回 アカデミックライティングの語彙・表現</p> <p>第10回 事実を客観的な表現で述べる</p> <p>第11回 事実と意見を書き分ける</p> <p>第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール</p> <p>第13回 レポートの構成や章立て</p> <p>第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2）</p> <p>第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（語彙・敬語など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	<p>課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。</p> <p>テスト2回50%・授業参加態度30%・提出課題20%</p> <p>（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出場合に限り、再試験を認めます。）</p>						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	岡田 裕子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。</p> <p>「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、大学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。</p> <p>より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 状況に応じた文章・文体</p> <p>第3回 設定に応じた紹介文</p> <p>第4回 メール（1）情報を知らせる</p> <p>第5回 メール（2）依頼する</p> <p>第6回 敬語の練習</p> <p>第7回 敬語と手紙</p> <p>第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1）</p> <p>第9回 アカデミックライティングの語彙・表現</p> <p>第10回 事実を客観的な表現で述べる</p> <p>第11回 事実と意見を書き分ける</p> <p>第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール</p> <p>第13回 レポートの構成や章立て</p> <p>第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2）</p> <p>第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（語彙・敬語など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	<p>課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。</p> <p>テスト2回50%・授業参加態度30%・提出課題20%</p> <p>（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出場合に限り、再試験を認めます。）</p>						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	岡田 裕子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。</p> <p>「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、大学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。</p> <p>より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 状況に応じた文章・文体</p> <p>第3回 設定に応じた紹介文</p> <p>第4回 メール（1）情報を知らせる</p> <p>第5回 メール（2）依頼する</p> <p>第6回 敬語の練習</p> <p>第7回 敬語と手紙</p> <p>第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1）</p> <p>第9回 アカデミックライティングの語彙・表現</p> <p>第10回 事実を客観的な表現で述べる</p> <p>第11回 事実と意見を書き分ける</p> <p>第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール</p> <p>第13回 レポートの構成や章立て</p> <p>第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2）</p> <p>第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（語彙・敬語など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	<p>課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。</p> <p>テスト2回50%・授業参加態度30%・提出課題20%</p> <p>（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出場合に限り、再試験を認めます。）</p>						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	岡村 裕美						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。</p> <p>「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、大学生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。</p> <p>より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・「何を書くか」だけではなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 状況に応じた文章・文体</p> <p>第3回 設定に応じた紹介文</p> <p>第4回 メール（1）情報を知らせる</p> <p>第5回 メール（2）依頼する</p> <p>第6回 敬語の練習</p> <p>第7回 敬語と手紙</p> <p>第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1）</p> <p>第9回 アカデミックライティングの語彙・表現</p> <p>第10回 事実を客観的な表現で述べる</p> <p>第11回 事実と意見を書き分ける</p> <p>第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール</p> <p>第13回 レポートの構成や章立て</p> <p>第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2）</p> <p>第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（語彙・敬語など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50%・授業参加態度30%・提出課題20%						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	武田 佳子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、大学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・「何を書くか」だけでなく「どのように書くか」を考え、書面を整えることができる。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介文 第4回 メール（1）情報を知らせる 第5回 メール（2）依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見を書き分ける 第12回 レポートの基本的なマナー・引用のルール 第13回 レポートの構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（語彙・敬語など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50％・授業参加態度30％・提出課題20％						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	野村 和代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。成果を発表することで、簡単なプレゼンテーションも行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン : 設定目標に対して現状を知る 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介の文章 第4回 メール(1) 情報を知らせる 第5回 メール(2) 依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見をかき分ける 第12回 レポートの基本的なマナーを知る・引用のルール 第13回 構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容)	反復が必要な内容(語彙・敬語など)に関しては、プリント課題を数回課します。自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50%・授業参加態度30%・課題提出20%						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章A／伝わる文章						
担当教員	野村 和代						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章A」では、敬語やメールの書き方、レポートを書く際のマナーなど、学生生活に必要な基礎的な知識を学びます。具体的な状況を想定し、読み手にとってわかりやすい文章とは何かを考えながら、実際に文章を作成します。より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。成果を発表することで、簡単なプレゼンテーションも行います。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・誰に対しても失礼にならないメールを書くことができる。 ・基本的な敬語の仕組みを理解し、正確に使える。 ・レポートのマナーを理解し、必要な表現を選ぶことができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン : 設定目標に対して現状を知る 第2回 状況に応じた文章・文体 第3回 設定に応じた紹介の文章 第4回 メール(1) 情報を知らせる 第5回 メール(2) 依頼する 第6回 敬語の練習 第7回 敬語と手紙 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 アカデミックライティングの語彙・表現 第10回 事実を客観的な表現で述べる 第11回 事実と意見をかき分ける 第12回 レポートの基本的なマナーを知る・引用のルール 第13回 構成や章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容)	反復が必要な内容(語彙・敬語など)に関しては、プリント課題を数回課します。自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	課題・グループワークなどの参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50%・授業参加態度30%・課題提出20%						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	岡田 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。</p> <p>「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。</p> <p>より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 ・主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉</p> <p>第3回 紹介の文章（1）あらすじ</p> <p>第4回 紹介の文章（2）すすめる</p> <p>第5回 説明の文章（1）道順</p> <p>第6回 説明の文章（2）手順</p> <p>第7回 説明の文章（3）配慮する</p> <p>第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1）</p> <p>第9回 図表から情報を読み取る</p> <p>第10回 文章を解釈する</p> <p>第11回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（1）</p> <p>第12回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（2）</p> <p>第13回 構成と章立てを考えて書く</p> <p>第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2）</p> <p>第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（書き言葉など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	<p>毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。</p> <p>テスト2回50%・授業参加態度30%・提出課題20%</p> <p>（テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出場合に限り、再試験を認めます。）</p>						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	岡田 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。 「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。 より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 ・主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）あらすじ 第4回 紹介の文章（2）すすめる 第5回 説明の文章（1）道順 第6回 説明の文章（2）手順 第7回 説明の文章（3）配慮する 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（1） 第12回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（2） 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（書き言葉など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50％・授業参加態度30％・提出課題20％ （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出場合に限り、再試験を認めます。）						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	岡田 裕子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	木曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。 「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。 より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 ・主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1）あらすじ 第4回 紹介の文章（2）すすめる 第5回 説明の文章（1）道順 第6回 説明の文章（2）手順 第7回 説明の文章（3）配慮する 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（1） 第12回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（2） 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（書き言葉など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50％・授業参加態度30％・提出課題20％ （テストを受けなかった場合は、単位を認定しません。ただし、正当な理由があり、教務課に「試験欠席届」を提出場合に限り、再試験を認めます。）						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	岡村 裕美						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	金曜1	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	<p>大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。</p> <p>「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。</p> <p>より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 ・主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉</p> <p>第3回 紹介の文章（1）</p> <p>第4回 紹介の文章（2）物語</p> <p>第5回 説明の文章（1）道順</p> <p>第6回 説明の文章（2）手順</p> <p>第7回 説明の文章（3）配慮する</p> <p>第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1）</p> <p>第9回 図表から情報を読み取る</p> <p>第10回 文章を解釈する</p> <p>第11回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（1）</p> <p>第12回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（2）</p> <p>第13回 構成と章立てを考えて書く</p> <p>第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2）</p> <p>第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（書き言葉など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50%・授業参加態度30%・提出課題20%						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	武田 佳子						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	月曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。より理解を深めるため、グループやペアになり協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機会や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、他者に伝わる文章表現ができる。 ・レポートの文章がどのようなものか理解し、望ましいものとそうでないものが区別できる。 ・主観と客観を区別し、必要な情報を客観的に伝えることができる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	第1回 インTRODクシヨン 第2回 事実と意見・話しことばと書き言葉 第3回 紹介の文章（1） 第4回 紹介の文章（2）物語 第5回 説明の文章（1）道順 第6回 説明の文章（2）手順 第7回 説明の文章（3）配慮する 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト（1） 第9回 図表から情報を読み取る 第10回 文章を解釈する 第11回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（1） 第12回 事実に基づいた主張/読解し意見を書く（2） 第13回 構成と章立てを考えて書く 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト（2） 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・反復が必要な内容（書き言葉など）に関しては、プリント課題を数回課します。 ・自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。 						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50％・授業参加態度30％・提出課題20％						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	野村 和代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。より理解を深めるため、グループやペアになり、協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機械や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、説明すべきこと、自分の考えていることを誤解なく他者に伝える文章が書ける。 ・求められている内容を正確に把握し、適切な表現で文章が書ける。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	第1回 イントロダクション : 設定目標に対して現状を知る 第2回 事実と意見・話しことばと書きことば復習(導入) 第3回 絵を文章で紹介する : 5W1H的な導入 第4回 物語のあらすじを紹介する 第5回 道順の説明 第6回 手順の説明・マニュアル 第7回 相手に配慮した説明 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 図表から読み取る 第10回 文章から解釈する : 引用復習(導入) 第11回 事実に基づいた主張／読解し意見を書く(1)・検定問題対策 第12回 事実に基づいた主張／読解し意見を書く(2) 第13回 構成と章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容)	反復が必要な内容(書き言葉など)に関しては、プリント課題を数回課します。自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50%・授業参加態度15%・提出課題35%						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	伝わる文章B						
担当教員	野村 和代						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜4	配当学年	1～2	単位数	2.0
授業のテーマ	大学生生活・社会生活に必要な文章力の基礎をつける。						
授業の概要	大学生・社会人として必要な「伝わる文章」を書く能力を身につけることを目的とし、実践的な練習をします。「伝わる文章B」では、状況を説明する文章や、アカデミック・ライティングと言われるレポートや論文の書き方のルールを学びます。自分の知識や意見を読み手に誤解なく伝えられるように、客観的な文章を書く練習を重ねていきます。より理解を深めるため、グループやペアになり、協同作業で文章を作成し、その成果を発表する機械や、お互いの書いたものを読み合う機会も設けます。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・考えながら書くことで、さまざまな状況において適切な文章のスタイルを選ぶことができる。 ・文章をコミュニケーションとしてとらえ、説明すべきこと、自分の考えていることを誤解なく他者に伝える文章が書ける。 ・求められている内容を正確に把握し、適切な表現で文章が書ける。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 ・根拠に基づいて自分の意見を論理的に主張できる。 						
授業計画	第1回 イントロダクション : 設定目標に対して現状を知る 第2回 事実と意見・話しことばと書きことば復習(導入) 第3回 絵を文章で紹介する : 5W1H的な導入 第4回 物語のあらすじを紹介する 第5回 道順の説明 第6回 手順の説明・マニュアル 第7回 相手に配慮した説明 第8回 質疑応答・振り返り・確認テスト(1) 第9回 図表から読み取る 第10回 文章から解釈する : 引用復習(導入) 第11回 事実に基づいた主張／読解し意見を書く(1)・検定問題対策 第12回 事実に基づいた主張／読解し意見を書く(2) 第13回 構成と章立て 第14回 質疑応答・振り返り・確認テスト(2) 第15回 全体の講評・個人の課題を明確にする						
授業外における学習(準備学習の内容)	反復が必要な内容(書き言葉など)に関しては、プリント課題を数回課します。自分の文章や身近にある文章に関心を持ち、読みやすさや読みにくさ、その原因などを考えるようにしてください。また、見本となる文章を自分の中に蓄積するために、新聞や小説その他の書籍をたくさん読むことを勧めます。						
授業方法	演習形式で、グループワーク・ペアワークも取り入れながら毎回何らかの文章を書きます。						
評価基準と評価方法	毎回の授業内課題・授業参加態度・テストの総合評価とします。 テスト2回50%・授業参加態度15%・提出課題35%						
教科書	適宜プリントを使用します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	予備登録						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ							
授業の概要							
到達目標							
授業計画							
授業外における学習（準備学習の内容）							
授業方法							
評価基準と評価方法							
教科書							
参考書							

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ディベートという議論の方法を習熟する。 主張するだけでなく、議論を噛み合わせていくために、 いかに相手の主張に耳を傾けるか、その重要性を認識する。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺し意見の対立は異常事態として捉えられます。「人間は皆異なる」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、違いをどのように克服していくかに力が注がれます。 ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が判定するスタイルのコミュニケーションです。ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、説得力のアップを図ります。						
到達目標	議論に際し、相手の主張することを正確に理解し、自分の主張することをわかりやすく伝えることができる。 データを収集分析し、データを活用した具体的な主張ができるようになる。 就職活動における入社試験や採用試験でも取り上げられるテーマについて理解を深める。						
授業計画	①ディベートの全体像 ディベートの必要性和デメリット、ディベートのルール ②ディベートの実際 ディベートの流れを筆記しポイントを把握する ③立論・尋問・反駁 論理構築の手法を学ぶ、論題に取り組む ④肯定側立論演習 立論原稿を作成しプレゼンテーション演習を実施 ⑤論理の構造 論理の演繹法・帰納法的展開 ⑥論理力を鍛える 接続詞につよくなる、作文法 ⑦ディベート実践1 ディベート準備・グループワーク ⑧ディベート実践2【こわい父か優しい父か】 ショートディベート演習（その1） ⑨ディベート実践3・【プロスポーツの第一義は勝つことなのか】 ショートディベート演習（その2） ⑩ディベート1 日本人のコミュニケーションの特徴、なぜ議論はかみあわないのか ⑪ディベート2【企業の英語公用語化は推進すべきか】 ディベート演習（その1） ⑫ディベート3【大学は秋入学にすべきか】 ディベート演習（その2） ⑬サッカーディベート1 論理力を鍛えるには・ディベート準備 ⑭サッカーディベート2【選択的夫婦別姓制度を導入すべきか】 サッカーディベート演習（その1） ⑮サッカーディベートⅢ【日本は死刑制度を廃止すべきか】 サッカーディベート演習（その2）・まとめ						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートでは有効な資料の収集も重要なポイントです。 授業外でディベートの資料の集めていただくこと、 その資料を使いながら立論を作成していただくことが大切になります。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度【30%】 演習評価【40%】、 提出物評価【30%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	ディベート演習I						
担当教員	福田 洋子						
学期	前期／1st semester	曜日・時限	金曜4	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	1. 他者の意見・主張を聞くことができる 2. 自分の意見を持ち論理的に他者に伝えることができる 3. 他者を説得することができる 上記に必要な理論とスキルを「試合」を実践することで学ぶ。						
授業の概要	「人間は皆同じだ」と考えている人々の間に意見の対立が生じると、人は動揺し意見の対立は異常事態として捉えられます。「人間は皆異なる」と考えている人々の間に意見の対立が生じて、それは当然のことであり、違いをどのように克服していくかに力が注がれます。ディベートは、対立する二極の立場の者が明確なルールに基づいて討論し、その説得力の強弱を第三者が判定するスタイルのコミュニケーションです。ディベート演習を繰り返し実践することで、人に受け入れてもらえる主張のスキルを身につけて、説得力のアップを図ります。						
到達目標	1) 生産的な議論の必要性を理解する 2) 論理的な思考をベースに、傾聴スキル、プレゼンテーションスキルを身につける 3) 論題に関する深い知見を得る 4) 社会生活での最適な「意思決定」ができる						
授業計画	1. オリエンテーション、アイスブレイキング 2. 自己分析、自己理解と他者理解、自己肯定と他者承認 3. コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキル、について 4. ディベートとは 5. ディベートから期待できる効果 6. 論題を考える 7. マイクロディベート、サッカーディベート、なりきりインタビューなど 8. 立論（論理の構築）、データの収集と活用 9. 尋問と反駁 10. 判定の基準 11. 論題決定（試合の準備） 12. 試合（価値論題） 13. 試合（政策論題） 14. 試合（全員がそれぞれの役割を担当） 15. 判定と総評：まとめ、課題発表・実施						
授業外における学習（準備学習の内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・生活のなかで、問題点や課題を発見するように心がける ・人前で発言するように心がける ・常に相手に伝わる話し方を心がける ・意見を述べるときは、必ず理由やその根拠をしめることを心がける ・映画やドラマの裁判シーンを研究する（英国作品を推奨する） 						
授業方法	・演習中心に行う。						
評価基準と評価方法	◎筆記試験は実施しない ・授業態度【30%】 ・提出物評価【30%】 ・演習評価【40%】 で評価します。						
教科書	プリントなどを配付します。						
参考書	授業中に紹介します。						

科目区分	コミュニケーション系列／コミュニケーション教育系列						
科目名	ディベート演習II						
担当教員	坂上 徹雄						
学期	後期／2nd semester	曜日・時限	水曜3	配当学年	2～3	単位数	2.0
授業のテーマ	ビジネス活動には主張に説得力が必要です。 その「説得力」と「客観的な判断力」を高めることが授業のテーマです。						
授業の概要	事実の真偽、主張の確からしさを検証するためには、説得力を競うことが欠かせません。それは日常生活においても同じです。対立する事態を客観的に捉え、それぞれの立場からオープンに議論することは、現実の問題点や課題を検証するためには有意義です。我々の生活になぜディベートが必要なのか、を究明していきます。演習を繰り返すことで、社会人としての必須の「わかりやすく自分の考えを述べ、相手の話を真剣に聞き取り、粘り強く議論できる」能力を養うことができます。習得したコミュニケーションスキルは、就職活動・ビジネス・思考・自己表現の根幹となります。						
到達目標	よりレベルの高い「説得力」を身につける。 「客観的な判断力」を高める。 「具体的な議論」の組み立てができる。						
授業計画	<p>①模擬ディベート演習 テーマに沿って、主張してみる</p> <p>②ディベート概説・立論の作成 立論・尋問・反駁のポイント、問題点を明確に主張する</p> <p>③プレゼンテーション（立論） 評価シートによるフィードバックを受ける</p> <p>④ディベート実践1 審査の方法・ショートディベート準備</p> <p>⑤ディベート実践2【地方自治体が実施する成人式は是か非か】 ショートディベート演習（その1）</p> <p>⑥ディベート実践3【企業において部下指導は厳しくすべきか】 ショートディベート演習（その2）</p> <p>⑦ディベート1 現代のわれわれが受け入れている行動哲学・思想は何か、を考える</p> <p>⑧ディベート2【共通番号制は是か非か】 ディベート演習（その1）</p> <p>⑨ディベート3【公務員は一芸採用すべきか】 ディベート演習（その2）</p> <p>⑩サッカーディベート1 感情的説得・功利的説得・論理的説得とは何か</p> <p>⑪サッカーディベート2【日本はカジノを合法化すべきか】 サッカーディベート演習（その1）</p> <p>⑫サッカーディベート3【配偶者控除は廃止すべきか】 サッカーディベート演習（その2）</p> <p>⑬ロングディベート1 わかりやすく主張する・主張に説得力をもたせる</p> <p>⑭ロングディベート2【脱原発という考えは正しいか否か】 ロングディベート演習（その1）</p> <p>⑮ロングディベート3【積極的安楽死を容認すべきか】 ロングディベート演習（その2）、まとめ</p>						
授業外における学習（準備学習の内容）	ディベートを実施する土台となる資料は、授業外で収集します。 その資料を活用し、授業とするディベート立論の論理構築を作成ください。						
授業方法	演習中心です。						
評価基準と評価方法	筆記試験は実施せず、 授業態度【30%】 演習評価【40%】 提出物評価【30%】 で評価します。						
教科書	教科書は使用せず、プリントを配付します。						

参考書	授業中に紹介します。
-----	------------